



惜しまれる名将の死

中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスの感染が広がっていることを受け、安倍首相は2日「政府としてはあらゆる可能性を想定し、国民生活への影響を最小化するため、緊急事態宣言の実施も含めて新型インフルエンザ等対策特別措置法と同等の措置を講ずることが可能となるよう、立法措置を早急に進める」と述べた。当面経済活動が大きくスローダウンしても、感染拡大防止を優先することが、中期的な経済にはプラスになるとの判断のようです。そのうえで経済的な「二次災害」が起こらないよう、資金繰り対策や雇用調整助成金の活用など、企業への万全な支援策を講じてほしいと願っております。（一斉臨時休校に伴う共働き家計への補助や支援の手当ても同様）



さて、新型コロナウイルス禍が注目される中で、プロ野球の南海などで活躍し、選手引退後にヤクルトなどの監督を務めた野村克也さんが先月の11日に亡くなりました（享年84）。ワイドショーやスポーツニュースなどで毎日のように特集が組まれ、BSやCSでも野村さんにスポットを当てた過去の番組が再放送されています。（正直ここ数年は、サッチーさんこと“沙知代”夫人にまつわる芸能系の話題が多かった気がします）顧みますと誠に惜しまれる名将の突然の逝去でした。選手としては戦後初の三冠王に輝いたほか、9度の本塁打王を獲得。生涯本塁打数657本は王貞治氏に続く歴代2位という輝かしいもの。また、現役引退後は監督として9度のリーグ優勝と3度の日本一に導き、指導者としても超一流であり、「ID野球」と言われるデータ重視の采配や選手指導方針および名言の数々は、企業経営にも応用可能なものが多く、氏の書籍は野球界の枠組みを超え、経営指南や人生哲学の書としても読まれていたようです。そこで、監督時代の名言から企業マネジメントのヒントを少し探してみたいと思います。



①試合終了後インタビューの名物もなった「野村監督のボヤキ」

ボヤキというと選手に対する不平不満を口にしてるように思われがちですが、「不満を表現するのは愚痴。チームを強くするための理想を掲げ、それが頓挫した時に口をついて出るのがボヤキ。つまり、理想と現実の差を認識し、それを表現するのがボヤキなのだそう。

②「リーダーは好かれなくとも、信頼されればよい。嫌われることを恐れる者にリーダーは務まらない」

これは最近の経営者、管理者に特に心して欲しい、ひと言です。

③「勝ちに不思議勝ちあり。負けに不思議負けなし」

「不思議勝ち」とは、ビジネスでは何故か判らないけど、上手く行くことは希にある。逆に不思議な負けは存在しないとは、失敗した時には必ず理由があるから、原因を突き詰めて同じ轍を踏まないことが重要である、と教えてくれていると思います。

ご冥福をお祈りいたします。

